

平成28年度第1回津山市ファシリティマネジメント委員会 議事概要

<p>日 時 : 平成28年8月4日(木) 午後1時30分 ~ 午後3時30分</p>	<p>場 所 : 津山市役所2階 第1委員会室</p>
<p>出席者</p> <p>【委員】 藏田委員長、坂本副委員長、菅田委員、小山委員、小西委員、村岡委員、有宗委員、藤下委員、赤井委員、四方委員、池口委員</p> <p>【津山市】 宮地市長、財政部長、財政課次長、財政課主幹、財政課職員</p> <p>【傍聴人】 0名</p>	
<p>1.開 会</p> <p>2.市長あいさつ</p> <p>3.委員委嘱</p> <p>4.委員長、副委員長選出 委員長に藏田委員、副委員長に坂本委員を推薦する案が全会一致で承認。</p> <p>5.委員長あいさつ</p> <p>6.協議事項</p> <p>(1)公共施設再編基本計画の策定</p> <p>事務局 : 公共施設再編基本計画の策定について報告。</p> <p>委員長 : 公共施設再編基本計画全体の体系と考え方について報告があった。とりあえず全体の枠組みについての報告であり、今の段階では特に意見等も無いようなので、このまま策定に向けて進められたい。</p> <p>(2)公共施設長寿命化等推進基金事業の実施</p> <p>事務局 : 公共施設長寿命化等推進基金事業の実施について報告。</p> <p>委員長 : 昨年策定した基本方針にある公共施設の適正な保全管理のための財源として設置した基金について、具体的な仕組みと進捗状況についての報告であったが、これについて意見等はあるか。</p> <p>委員 : 毎年の基金の積立額が1億から2億となっており、その原資として寄付金と決算剰余金とあるが、それぞれどの程度の額を見込んでいるのか。また1億から2億円では優先順位3位程度までしか賅えないのではないか。</p> <p>事務局 : 寄付金については、現時点ではその方法も含めて確立していないが、ふるさと納税の枠など具体的な方法を今後検討していく。決算剰余金については既に1億円積立てており、さらに9月補正予算で昨年からの繰越金を活用してさらなる上積みを行いたいと考えている。</p> <p>委員長 : 津山市の毎年の決算剰余金の額はどの程度か。</p> <p>事務局 : 15億円から20億円程度。</p>	

委員長 : その中の一部を基金の原資とするということ。もう一点目の基金の額と対象となる事業のボリュームを考えると全てを賄うことはできないのではないかという点についてはどのように考えているか。

事務局 : 実際に原課より出された要望の中には、基金の対象事業となる条件を満たさないものも含まれており、精査の結果、今年度は基金で対応すべきと判断した事業については予算内に収まったが、引続き、次年度の当初予算に向けて事業選定を行っていきたいと考えている。なお、予算額が大き過ぎて基金だけでは対応できない場合は、基金以外の財源の活用も含めて検討を行う。

委員長 : 除却債など特別な財政措置があるものについては、それらも含めて検討するという。また、この基金はFMの取組を継続的に進めるための財源であり、公共施設の全ての保全修繕を賄うものではないということであった。

委員 : このような基金を設置し活用を行っている自治体は全国的にはどの程度あるのか。

委員長 : 計画を定めるところまでは行っても、そのための財源はこれから考えるという自治体がほとんどではないか。そういった意味では、津山市が実際に基金を設置し活用を始めたことは、先進的で有意義な取組だと言える。

事務局 : 実数の把握はしていないが、委員長が言われる通り数は少ないと思われる。例えば「〇〇城専用の基金」というような特定の施設のための基金を設けている自治体はいくつかある。

委員 : 基金は会計処理が不明確になる恐れがあるので、透明性のある運用をしていただきたい。

事務局 : 基金事業については繰入金を予算計上する際に対象とする事業を明らかにしていくこととしている。

委員長 : 基金事業の内容をガラス張りにすることで、興味関心を持つ市民も出てきて、その結果寄付金を申し出る方も現れるかもしれない。批判や様々な意見も出るかもしれないが、市民が事実を知るチャンスも生まれる。基金の使い道を明確にすることは、市民にとっても管理者にとっても有意義なことであり、そういった意味でも情報を発信しながら進めていただきたい。

委員 : 事業の優先順位を決める基準として、リスク、重要度、利用度を挙げているが、各施設がいつごろ更新時期を迎えるかといった時間軸もあった方が良いのではないかと。また、将来に潜む財政変動に伴うリスクについても踏まえておくべきではないか。国、県からの補助金の動向、削減できない固定費や増加する社会保障費、少なく見積もってもどの程度必要で、どれだけの額が充てられるのかという財政リスクも見越して考えていかなければ、この先10年、毎年1億を確保できるかどうか疑問に思う。

事務局 : ご指摘の通り、市の財政運営において、財政リスクのある年ない年、大きく変動があることは我々も認識しており、それを踏まえた財政計画に基づき基金の造成を行っている。決算剰余金についても多い年少ない年変動があると思うが、そのことも踏まえつつ計画的な積立てを図っていきたいと考えている。

時間軸についても事後保全から予防保全にシフトするための重要なポイントであると考えている。しかしながら、昨年白書を取りまとめて、施設の総量や老朽化状況について初めて一元化ができたばかりというのが現状であり、実際に基金事業をスタートしてみたところ、既に危険な状態ですぐに修繕しなければいけないというものばかりで、予防保全とは程遠い状態であった。これは予想していた最初の段階であり、これが3年、5年、10年経って、施設の改修時期に関する情報も蓄積され、現在のように所管課から「壊れたから診てほしい」ではなく、こちらから「改修時期が迫っているので措置して下さい。」と指示する予防保全の状態によくシフトして行けるものと考えている。

委員 : どこにどれだけの施設があるのかほとんどの人が知らないと思うし、地元の方にとって公共施設は、「そこにあるのが当たり前」「今後もずっと行政が面倒をみってくれるもの」と思っている人がほとんどだと思う。勉強会を開いたりして情報を発信することは大切ではあるけれども、市民の中に混乱を招いたり、焦って反対運動が起きたりする事の無いよう、それぞれの施設によってやり方は様々だとは思いますが、どのように情報公開をしていくのが良いのかも考えていかなければならない。

委員長 : 今の情報公開の話にも関連する次の「概要版公共施設白書の配布」に移りたいと思う。

(3)概要版公共施設白書の配布

事務局 : 概要版公共施設白書の配布について報告。

委員長 : 今年2月のシンポジウムに参加、協力された委員より一言ずつ。

委員 : シンポジウムには、津山市周辺の市町村の職員の方も多く来られて熱心に聞かれていたことを覚えている。この問題は津山市だけでなくどこの市町村にとっても喫緊の課題なのだろうと思う。また機会があれば協力したいと考えている。

委員 : 昨年の委員会で我々は初めて津山市の公共施設の現状を知り衝撃を受けた。シンポジウムでは参加者の人達に、津山市の現状についてスライドで見ていただいたのだが、まず知っていただくことの重要性について、委員としても改めて考える良い機会であった。

委員長 : このシンポジウムでは、参加者に向けて公共施設白書の内容と昨年実施した施設の老朽化調査の結果について写真入りでわかりやすく説明があり、それらを見た参加者には、危機感や問題意識といったものを感じてもらえたように思えた。ようやく公表できた白書なので、今後とも白書をもっと活用して、様々な機会を通じ、市民との情報と認識の共有に努めていってほしい。

委員 : 自分もこのシンポジウムに参加するまで、この問題について全く知らなかったもので、うちの青年会議所のメンバーも知らない人が多いと思う。については、共同の勉強会が開ければ

と考えている。我々が動けるところでは我々が動いて共に話をしていくという活動もできると
思うし、そうやって同じ思いを持つ人の輪を広げていくことがこの問題解決に向けての「情報
と認識の共有」に繋がっていくのではないかと。先ほど小山委員も言われたとおり、「知らな
かった。」というのが自分の一番の感想であり、帰宅してから改めて白書をダウンロードしてじ
っくり読んで、1年2年ではそう変わらない公共施設も5年10年経てばどうなっているのか、
これは多くの人が考えていくべき問題だと感じた。

委員長 : いろいろな方達にこの問題について知っていただく機会を作るという面でも、引き続き
我々も協力していきたいと思う。

(4) 公共施設再編への取組について

事務局 : 公共施設再編への取組について報告。

委員長 : まずは、二宮幼稚園と二宮公民館の複合化について意見を。

委員 : 今の二宮幼稚園は、道が狭く踏切もあり出入りが難しい。建替えにあわせて改善する予
定はあるのか。また、市内12園を2園に統合するということであるが、駐車場が今のスペー
スでは狭いのではないかと。

事務局 : 担当課より敷地の西側と東側から進入路確保し、市道の拡幅も含めて計画していると聞
いている。駐車場については、東側のバイパス道路の下の土地も確保し、駐車場として整
備し、駐車台数は現在の2倍程度になる計画であると聞いている。

委員 : 新幼稚園の開園時期はいつ頃になるのか。

事務局 : 平成30年度に整備、平成31年に開園予定。

委員 : 受入れる年代と受入人数の想定は。

事務局 : 3歳児から5歳児を想定している。受入人数は、今後の児童数の推計も踏まえ180人を
想定している。

委員 : グラウンドとして整備する予定地には建物があるが、この土地建物は津山市のものか。

事務局 : 旧二宮公民館の建物で、現在は投票所としての利用がある。津山市の建物なので取壊
す予定。

委員長 : 幼稚園と公民館の合築事例は全国的にも多くあるので、制度的にも障害となるものは少
ないのではないかと。幼児教育のあり方や生涯学習のあり方からみた意見もあるかと思
うが、本委員会ではFMの視点で協議をしていただきたい。具体的に落とし込んで考え出
すと、様々な課題が浮かび上がってくると思う。委員が言われたような課題や改善点につ
いても、市民の方も一緒に考えてもらうことができるのであれば、市民を巻き込む良いき
かけとなり、より良いものへとつながるのではないかと。

委員 : 公民館というのは誰でも出入り自由な施設だが、幼稚園にも誰でも入れるとなると安全面の問題があるのではないかと。

事務局 : 幼稚園の安全を確保するために構造的に2つの施設を区分しつつ、一方でグラウンドやホールを共用することにより交流もできる場も設けるといったような形で建設するようになる。

以前、井原市の幼稚園と公民館の合築施設を視察に行った。その施設は、建物は一つで出入口はそれぞれ別々。園児たちの安全確保のため、幼稚園側から鍵がかけられるようになっており公民館から幼稚園には自由に入れない構造になっているが、逆に幼稚園から公民館には比較的簡単に入れる構造になっている。実際にどのような相互メリットがあるかという、一般的な幼稚園はその性格上、広い会議室を設けていないことが多い。そのため幼稚園のPTA会議を開く時に公民館の会議室を利用したり、公民館の調理室を利用して親子料理教室を開催したりしている。一方で休日は幼稚園のホールを利用して、公民館で活動している人達の発表会が行われている。印象的だったのは園長と館長の意志疎通がきちんと図られている点で、このような合築施設が有効に活用されるためには、そのような点も重要だと感じた。

委員 : 駐車場とグラウンドの間に擁壁を作るようになっているのはなぜか。

事務局 : 航空写真では解り辛いですが、グラウンドと駐車場にはかなりの段差があり、駐車場側が数メートル低い。現在は法面となっているが、擁壁を設置することで敷地の有効利用を図る計画となっている。

委員 : 今は幼稚園より保育園の方が需要が高い。こども園という選択もあると思うが、近隣に保育園があるのか。

委員 : 本委員会で議論することではないかもしれないが、幼稚園よりこども園の方がニーズがあるのではないかと。美作大学付属幼稚園も今年度定員割れが起きている。今は180人の園児が通う幼稚園でも良いかもしれないが、20年後、30年後の子供の数を考えると、幼稚園で良いのかと思う。

委員 : しらゆり幼稚園が幼稚園からこども園になったが、こども園になるまで6年程かかった。幼稚園と保育園では対象となる園児の年齢が異なるため、幼稚園の設備のままではこども園として使用できない。低年齢児であっても使用できるトイレなどを新築の段階から予め設けておけば、将来的にこども園への転用することも容易にできると思う。

委員 : 少しの事で、他の施設への転用を見越したつくりで建築することができるのであれば、その方が良い。

事務局 : 久米や勝北など旧町村は、元々保育園しかなかったため、こども園への移行、整備を進め、旧津山市内は私立保育園が複数あるため、公立幼稚園と私立保育園を一体的に考えて規模や人数を決め、公立幼稚園と私立保育園が併設する形で考えている。

委員長 : FMの観点でいえば、将来人口推計を踏まえ、可能な限り未来を予見し、こども園をはじ

め、他の施設への転用が可能な形で整備することは重要なことであると考えている。続いて、加茂支所の耐震化について。単に今ある建物を耐震化するのではなく、周辺施設との複合化が図れないかということの検討を始めたということであるが、これについて意見を。

委員 : 現在の加茂支所に勤務している職員数は、また将来の増減見込者数は。

事務局 : 25名。現時点では支所機能は維持するという方針なので、支所機能の維持に必要な人数は将来にわたっても保持する予定。

委員長 : 現在加茂支所にある部署は。

事務局 : 証明書等の交付や福祉窓口にあたる市民生活課および、農業や道路維持などを受け持つ産業建設課。それに支所長を加えて25名。

委員 : この二宮と加茂の事業には長寿命化等推進基金を使用するのか。

事務局 : この2件は新規整備事業にあたるため、基金事業ではなく主要事業として行う。

委員 : 大きなテーマでもあり一度現地を見てみたい。また、加茂地区だけでなく阿波地区も一緒に考えた方が良いのではないか。

事務局 : まず加茂支所については、耐震性を満たしていないことが判明しており、今後の考え方をどのように整理すべきかについて今回は協議をさせていただいている。阿波出張所については比較的施設も新しく、新耐震基準を満たしている。また、出張所ではあるが阿波地域振興のための機能を残すという必要もあり、直ちに加茂支所の耐震化にあわせて集約化という事は考えていない。ただし数十年後には、その時の社会情勢に応じて全市的に検討すべき事項だと考えている。加茂支所周辺の現地視察については、現地の状況をご存知の委員の方もおられるので希望する委員のみになるうかと思うが、次回ご案内できるよう調整したい。

委員長 : 実際に現地を見てもいいこと。委員それぞれが何かしら感じる事が出てくると思う。

副委員長 : 本委員会で出た結論がそのまま方針決定となるのか。それとも参考意見の一つとして扱うのか。例えば、二宮幼稚園の件については、幼稚園、保育園、PTA及び地元関係者を含めた方針決定のための会議体が別に存在する。その中で反対意見も含め様々な意見が出されたが最終的に12園から2園に集約する方針が認められた経緯がある。加茂支所についても方針決定まで行うのであれば、加茂地域の方に加わってもらわなければいけない。地元の方を抜きにして決めても混乱を引き起こす。改めて聞くが、本委員会で出た結論がそのまま方針決定となるのか。それとも参考意見の一つとして扱うのか。この点について、はっきり示していただきたい。

事務局 : 当然事業を進めるにあたっては、地元協議をしながら進めていく。FM委員会では事業方

針を決定するではなく、この事業を進めるにあたってFMの視点からのご意見をいただきたい。そして今後の方針は、FM委員会からいただいた意見も参考にしながら、市が地元と協議を重ね決めることになる。

副委員長： 参考意見として扱うのであれば良い。

委員： 地元協議を行う予定は。

事務局： 既に始めている。

委員： 地元にはどのような説明をしているのか。

事務局： 単に今の支所を耐震化するのではなく周辺施設との複合化が図れないか検討したいのだが、ご意見をいただきたいと投げかけている。

副委員長： 本委員会が出された意見は、その時に市が「こういった考えもある」という案を示すための材料になるということ。

委員： 地元からはどのような意見が出されているか。

事務局： 地元の方にとっては、加茂支所はシンボルでもあるという思いもあるので、規模やあり方についてのご意見をいただいている。

副委員長： 市町村合併後も大字に加茂町という名称を残しているくらい、加茂の方は地元への思い入れが強いので、とても大変だと思う。

委員： 阿波小学校が加茂小学校に集約したが、小学校が無くなることに比べれば、支所が建替えはまだ理解が得やすいのではないかと。

委員： 公共施設には主たる用途のほかに、災害時の避難所と言ったような他用途を併せ持ったものがある。それぞれの用途に応じて民間施設との提携や協定を結ぶことも考えていくべきだと思う。例えば、商業施設の中に支所が入っている他都市の事例では、利用時間の延長などが可能になり利用者の利便性が上がったという効果も出ている。また、指定の避難所まで避難することが困難な高齢者等のために、近隣の民間施設と協定を結び緊急避難場所とする事例もあるように、公共施設だけで再編を考えるより新たな可能性が生まれるのではないかと。そして施設だけでなく多角的な再編の議論を盛り上げていけば、地区ごと、地区別の検討だけでは見えなかった方向性が見つかって、津山全体がより良くなっていくのではないかと。

委員長： 委員が言われたような事例は全国に沢山あり、民間にとってもプラス、行政にとってもプラスになる。民間事業者の中にも地元貢献したいと考えている経営者の方は沢山いる。それぞれができる事、ある物、持っている物を上手く活かして組み合わせ、利用者にとってもプラスになるような仕組みを民間事業者の知恵と力も借りつつ考えていけば、さらによ

り良い結果につながると思う。

地元の意見はしっかりと受け止める必要がある。しかしながら、地元の意見のみを重視しすぎて局地的な視点で考えても良い結果は生まれない。一方で津山市民全体の財産という視点をもった考え方も取り入れていくことが、中長期的に見れば望ましい結果を生み、結果的には加茂地域の人にとっても良いものができあがる。そのためにもFMの考え方や取組について広く周知を図り、一人でも多くの方に理解してもらうよう地道な啓発活動も続けていきたい。また、単に施設数の増減、面積の増減にばかりに囚われるのではなく、加茂支所を建替えたことで、加茂地域が良くなった、利便性が上がったと思える工夫を、複合化、公民連携など様々な視点から併せて考えていきたい。それぞれの地域の歴史、特性もあるだろうが、そこにばかり囚われず、正しい情報と客観的なデータを積み重ねて協議を続けていくことが地元住民との合意形成に近づく道であると思うので、我々もそのことを改めて認識しつつ、少しでも加茂地域の発展に貢献して行きたいと思う。

(5)その他

特になし。

7. 第2回津山市ファシリティマネジメント委員会開催日時について

平成28年 9月29日 (木) 午後から

第3回津山市ファシリティマネジメント委員会開催日時について

平成28年10月20日 (木) 午後から

8. 閉会